

# 令和6年度の事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

認定特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド

## 1 事業の成果

令和6年度事業について、定款の項目に従い成果を総括すると次のとおりである。

### (1) 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業(定款第5条(1))

待機児童の解消や少子化などの様々の要因に加え、コロナ禍後の母親同士の交流機会の減少などから、登録育児サークルは5サークルとなった。サークル経験者でOBとして卒業したサークルに関わってきた人材をスタッフに迎えることができたため、子育て中の母親の意向を活動に取り入れやすくなり、支援活動を見直しながら取り組んだ一年だった。

令和3年度から継続してきた「今日はべにっこひろばの日」での会場提供・活動支援は10回、150名が参加(うち1回はサークル訪問)、見学会は3回、20名が参加した。サークル交流研修会は3回開催、119名が参加した。平成27年から活動する「プレイセンターべにっこ」は通年でのべ350名が参加した(べにっこひろば及びべにっこひろば子育て支援センター管理運営業務、以下べにっこひろばと表記)。

サークル的機能“親同士のつながり”を作る「赤ちゃんと一緒に(BPプログラム、全4回)」は、平成27年度から子育てランドあ〜べで通年開催し、2〜5か月児の母子の仲間づくりをしてきた。令和6年度は10期のうち6期開催し410名が参加した(山形市子育て支援施設子育てランド運営業務、以下子育てランドあ〜べと表記)。子育てでつながる家いろはでは、出生数が減り、開催に必要な親子5組を集めることが難しくなり、新たに「赤ちゃんクラス」のプログラムを企画、実施し、のべ119名が参加し継続的な来館につなげることができた(子育てでつながる家いろは(長井市子育て支援センター)運営業務委託、以下いろはと表記)。

育児中の親が共通のテーマのもとに集まるサークルとしてパソコンやSNS等に興味がある人のICTサークルを令和4年5月に立ち上げ、令和5年度も継続したが、令和6年度は開催しなかった。保育士資格取得準備サークルはコロナ禍による休会が続いていたが、後期試験に向けて8〜10月に集中的に開催し、のべ12名が参加した(子育てランドあ〜べ)。

育児支援サークルの支援では、各拠点とも学生やボランティア団体を感染症流行に配慮しながら受け入れた。べにっこひろばでは、山形大学や県立保健医療大学のボランティアを受け入れる他、個人の継続的なボランティアが活躍するなど、地域との連携事業にのべ1,801名が参加し令和5年度の3倍の人数となった。地域では、山形市大曾根コミュニティセンターの乳幼児対象の運動会を支援し14名が参加した。

シニア層が子育て支援活動に参画できるよう、山形市でシニア層対象の講演会を開催し、オンライン配信を含め33名が参加した。さらにボランティア体験の機会を提供したが参加は2名にとどまった。講演会の内容に加えて、参加者アンケート、シニアボランティア受け入れについてのアンケート調査の内容をまとめ、山形県のホームページで公開した(やまがた他孫(たまご)育て支援事業)。

シングルマザーの子育てサロン「シンシンの会」は、毎月第3日曜日に企画・定期開催し、のべ60組149名が参加した。令和2年度からカフェと協働し、毎回テイクアウトランチを100円で提供する他、ボランティアや学生の活動、子ども食堂関係の寄付による食品等の提供の支援を継続した。

育児支援のネットワーク活動は、「村山地域みんなで子育て応援団」、「置賜地域みんなで子育て応援団」に参画し、地域内のネットワーク活動を継続した（自主事業、地域子育て支援）。

## (2) 保育事業(定款第5条(2))

保育事業は、講座・催し物の臨時託児室運営は29件で、前年度より9件減少した。開設申込件数は54件で約半数がキャンセルだった。これまで通り、衛生管理、主催者との調整、保育者の育成など、保護者が安心して子どもを託すことができるように努めた。人材確保のため、2名がスタッフ研修を受講した（自主事業、保育事業）。

マザーズジョブサポート山形内「保育ルームにこここ」は、1日平均利用子ども数1.1名となった。求職中でも保育所に入所でき、子どもを連れて求職活動をする人が減少していると考えられる。

自主事業の会員制の預かり活動「子育てサポート応援団」は、山形ファミリー・サポート・センターに集約したため、令和5年度に引き続き活動件数は0件だった。

山形市のファミリー・サポート・センターを受託は4年目となり、協力会員は82名、利用会員473名と前年度なみであるが、活動件数は3,199件となり令和5年度の1.6倍となった。なお、令和5年度1,957件についても前年比約1.7倍の件数となっており、受託してから大きく利用が伸びている活動である。山形市が直営で運営していたころの活動を参考にし、ママパパ教室など周知活動を改善しながら実施し、ひとつ一つの依頼を会員の声を聞きながら丁寧にコーディネートした結果が表れていると思われる。今後も協力会員の育成、掘り起こしに努めながら、多様なサポートの形を模索し支援の幅を広げていきたい(山形ファミリー・サポート・センター運営業務)。

平成25年度から受託した山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業は、周知広報や両町の利用者への補助金の効果で平成27年度40件から、28年度216件、29年度300件、30年度は244件と推移した。しかし31年度は43件、令和2年度14件と減少し、令和3年度は5件となった。コロナ禍の中対面での周知活動ができず令和4年は52件、令和5年は両町に出向いての周知活動を再開したものの利用は13件にとどまっている。しかし、会員交流研修会や子育て支援センターとの連携しての周知活動が効果をあげつつあり、新規利用会員の増加につながった(山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業)。

「子育てランドあ〜べ」の一時預かりは、利用者数が1,896名と令和5年から約100名の増加となった(子育てランドあ〜べ)。

平成26年度から受託した「山形大学小白川キャンパス保育所」は、令和5年度から3年間の委託契約の2年目となった。子ども数は、のびのび、つぼみの合計で、年度始め22名、年度末29名となった。令和2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症などの流行予防を徹底しながら運営し、様々な感染症流行を防ぎながら、保育参観、親子行事に取り組んだ。限られた環境の中かでも遊びのコーナーを工夫したり、食に関するアンケートを実施、食材に触れる機会を作る等食育にも力をいれた。また、開所以来初めて卒園児が就学時期を迎えて5歳児の保育証書授与式を開催した。1年間の成長を振り返るスライドショーを見てもらい、保護者がこれからの育ちに見通しを持つことができた。延長保育の利用回数が多くなり、職員や子ども自身の負担が大きかった(山形大学小白川キャンパス保育所運営業務)。

## (3) 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業(定款第5条(3))

紙媒体での広報から、子育て当事者向けの情報発信を、インターネットを活用した広報へと移行していく一年だった。

子育て支援者向けには、会員向けに年3回ニュースレターを作成し、協力会員等の法人・個人

へ送付し、サークルランドの現在の状況を会員の皆さんに知ってもらった。

「子育てランドあ〜べ」では、情報紙「あべあべ！あ〜べ！」（毎月15日発行）を、1,000部発行し、育児サークルや支援センターなど181か所に配布した。LINEを月1回発信しホームページにリンクさせるほかInstagramで月8〜10回程度あ〜べの情報を発信した。なお、Instagramは年度末でフォロワー数は923である（子育てランドあ〜べ）。

「べにっこひろば」では、べにっこひろばだよりを月1回、200部発行した。広報やまがたは、令和3年度から掲載していない。Webでは、山形市のすくすくネットにイベントを月1回告知し、ブログを月3〜8回更新し情報提供した。Instagramでも月8〜10回投稿し参加につながった。民間のサイト「いこーよ」に月1回程度情報を提供した（べにっこひろば）。

「子育てでつながる家いろは」は毎月のおたより「いろは」を50部程度発行、LINEは月1回、Instagramは週1〜2回情報を継続して発信した。ホームスタートおきたまのビジター向けに、HV（ホームビジター）通信を2回発行し郵送した（子育てでつながる家いろは）。

マザーズジョブサポート山形は、ホームページの他、LINEを開設し3年が経過し、令和5年11月から始めたInstagramは有料広告を配信するなど活用した（マザーズジョブサポート山形）。マザーズジョブサポート庄内でも、LINEやInstagramを活用し広報した。10月よりパンフレットとチラシを乳幼児健診時に直接手渡すようにし、手ごたえを感じた（マザーズジョブサポート庄内）。

#### (4) 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業（定款第5条(4)）

人材育成関連では、育児中の親向けの講座、女性の自立に向けての支援活動、地域の子育て支援力の向上のためのボランティア育成研修会、子育て支援の専門的な研修等を継続して行った。

一般向けの研修では、妊娠期からの切れ目ない支援としてママパパ教室をあ〜べの研修室を会場に8回開催し75名が参加した（山形ファミリー・サポート・センター運営事業）。2〜5か月児と母親対象の「赤ちゃんと一緒にベビープログラム」（2時間×4回）は、あ〜べで6期実施した。「子育てランドあ〜べ」での“高校生のパパママ体験”は3名を受け入れた。あ〜べのパソコン講座はのべ52名が参加した。ICTサークルは開催しなかった。

育児サークル交流研修会では、山形市男女共同参画センターファーラと協働し、育児サークル支援とリーダー層の育成を図った。また、サークルメンバーから希望があった「0歳から始める性教育」をテーマとした交流研修会は好評で、サークル活動時に共有したとのことだった（再掲）。

女性の自立支援では、『マザーズジョブサポート山形』（平成26年から継続、山形テルサ内）、『マザーズジョブサポート庄内』（平成29年から継続、酒田市中町庁舎内）は令和6年度も継続し受託した。

利用状況は、山形では、令和6年は287日開設となり、利用者は1,061名だった。一日平均3.5名、うち相談は2.5名と令和5年度と同数であった。「保育ルームにこここ」利用者はのべ154名、一日平均1.0名だった。セミナー及び職場見学会は44回、のべ212名と参加者は増加した。うちオンラインでの講座受講は25名となり市外からの利用もあった。LINEやInstagramを活用して申し込みの利便性が増したことが効果をあげていると思われる。出張相談は寒河江、村山、長井、村山、米沢の各ハローワーク、子育て支援センターにて24回行い、セミナー参加は大人19名、見守り保育の子ども12名、出張相談時の個別相談は55名、見守り保育の子どもは59名だった（マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務）。

マザーズジョブサポート庄内の利用状況は、245日開設、のべ818名、一日平均3.3名、うち相談は2.8名が利用となった。「保育ルームきらきら」はのべ87名、一日平均0.6名と微増だった。セミナーは30回開催し参加者はのべ124名と増加した。うち4名がオンラインによる参加だった。出張相談は鶴岡、新庄の各ハローワーク、子育て支援センターにて21回行い、セミナー参

加は大人7名、見守り保育の子ども4名だった。出張相談時の個別相談は79名、見守りの子どもは86名となった。ハローワークでのセミナー、相談は令和5年度の5割程度となったが、子育て支援センターでの相談者数は1.4倍に増加しターゲット層に働きかけることができた(マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務、特定非営利活動法人にこっとと共同企業体を組織し受託)。

ボランティア育成では、「子育て支援者養成講座」を2回開催し各地で子育て支援者の育成を図った(山形市5~6月は山形ファミリー・サポート・センター運營業務、10月中山町は山辺町・中山町からの委託で、修了者は山形市会場8名、山辺町会場1名の合計9名であった。「ホームスタートビジター養成講座」は2/12から全6回で開催し、新しいビジターが3名増え、「ホームスタートやまがた」102名(活動不可の方も含む)、「ホームスタートおきたま」17名が登録されている。

震災関連では、平成25年度から研修・交流を継続し12年目となり、宮城、山形、福島、新潟各県の支援者を対象に、最終回となる交流研修会を開催した。12月に杉山恵理子先生を講師に「それぞれの終結とは~震災後の支援を振り返り、これからを考える~」を行い、39名が参加した。過去23回の研修会をスライドで振り返り、継続して参加してくれた人だけでなく、初めて参加した人も経緯を理解してもらうことができた(やまがた・ふくしま子育て支援交流事業)。

家庭的保育者(保育ママ)関連の研修は、23年度から毎年山形市から受託している。令和2年度から引き続き現任研修を開催し、山形市内の講師による対面の研修を3日間開催した。テーマを「原点に戻って基本を学び、初心にかえって子どもに向き合う」とし、働きかけを工夫したところ、参加者はのべ110名と増加した(山形市家庭的保育者現任研修)。

子育て支援員研修は29年度から受託している地域子育て支援コースの他、令和5年度より新たに山形県で行われる全コース(地域保育コース、放課後児童コース)を受託し、令和6年度は152名が修了した。このうち地域子育て支援コースは3年ぶりに利用者支援事業・基本型の研修を開催し7名が修了した(山形県子育て支援員研修事業)。

#### (5) 調査提言事業(定款第5条(5))

令和2年度から継続して5回目のアンケート調査を行った。対象はシニア層の令和5、6年度の講座受講者79名、シニアボランティア受入れ側として子育て支援団体等109か所に

調査票を送付し、受講者49名、団体等63か所から回答があった。アンケート結果に加え、講座の要点をまとめ、シニア層が他孫育てに興味関心が持てるようなレポートを作成し、山形県の「やまがた子育て応援サイト」で公開した。

アンケート調査では、講座受講者でアンケートに回答した全員が、今後、自身の孫育てや地域ボランティア活動に参加したいという意向であった。講座を受講したことで子育て世代を応援する気持ちが増してそれが継続しており、自分にできる子育て支援は何かを考えるきっかけになったと考えられる(やまがた他孫育て支援事業)。

ホームスタートジャパンのシステムQISSに基づき全国での統計にデータを提供した(自主事業ホームスタートやまがた、おきたま)。べにっこひろばでは、来館者対象に随時アンケートを行い、運営に活かした(べにっこひろば)。子育てランドあ〜べではおやこ広場、託児ルームの利用者アンケート調査を行った(子育てランドあ〜べ)。

#### (6) 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業(定款第5条(6))

村山地域の子育て支援団体と市町村によるネットワーク「村山地域みんなで子育て応援団」で

は、会議(書面開催)や研修、情報交換会を行い対面での交流の機会をもった。べにっこひろばでは、市内外からの見学や視察を数多く受入れた。

置賜地域の子育て支援団体と市町村によるネットワークでは、視察研修を受託し、参加者 11 名で、寒河江市内の子育て遊戯施設 3 か所を視察しながら情報交換も行うことができた(令和 6 年度置賜地域みんなで子育て応援団事業(視察研修・先進地視察)業務委託)。

#### (7) 子育て支援施設の運営事業(定款第 5 条(7))

令和 6 年度は、感染症流行時の様々な制限が解除され、施設の運営もほぼ以前の活動にもどった。

みはらしの丘「ミュージアムパークはらっぱ館」は、指定管理事業者と 14 年目の委託契約を結び、講座事業や育児サークル「マープル・チョコレート」などの子育て支援事業を継続して開催した。育児サークルは、子ども達の入園でメンバーがいないところからのスタートだったが、OB が積極的に新会員募集に協力したことで、8 組のサークルになり会員同士が協力し合いながら楽しんで活動している(蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務)。

「子育てランドあ〜べ」は N-GATE に移転し 8 年目となった。N-GATE は七日町商店街振興組合の事務所、2 階以上が駐車場で中心市街地活性化の一端を担っている。令和元年 1 月に大沼デパートが閉店、令和 2~4 年が新型コロナウイルス感染症流と厳しい状況が続くなか、令和 4 年 9 月に旧山形第一小学校旧校舎が「やまがたクリエイティブシティセンター Q1」してリニューアル、令和 5 年度は山形五堰の御殿堰整備などと七日町の様子も変わってきている。中心市街地では駅前でのイベントが増え、人の流れが変わってきている様子もうかがえる。

令和 6 年度はあ〜べはおやこ広場、託児ルームともにコロナ禍前の利用者数を回復し、山形市の出生数は減少を続けているなか、利用者数はほぼ横ばいとなっているが、親子ひろばの新規登録者数が 2 割減となった。

開館日数 296 日で、おやこ広場利用者数は 13,995 名、新規登録者 833 名、託児ルームは、利用者数 1,896 名だった。親子交流事業は、身体測定、お誕生会・「ハーフバースディ」、テーマを設けた「ワイワイトーク」、「ぶっくサロン」、「ふたごちゃんあつまれ」を継続実施、他機関との連携イベント、季節・遊びのイベントなど 206 回、のべ 3,275 名が参加した。親子学習事業は、ベビープログラム「赤ちゃんと一緒に」(通称 BP)は 10 期計画し 6 期開催のべ 410 名参加など、78 回開催し 1,201 名が参加した。各種相談会は親子ひろばでうける「気軽に育児相談」を含むとのべ 1,542 名の参加であった(子育てランドあ〜べ)。

「べにっこひろば」は、2 期目の指定管理(10 年間)の 3 年目となった。感染症流行後の制限は利用の実情に合わせ、定員 400 名、利用時間 90 分程度を目安として運営した。屋内来園者数は、例年の 5 分の 1 であった令和 2 年度 48,539 名から、令和 3 年度 71,052 名、令和 4 年度 119,447 名、令和 5 年度 208,716 名、令和 6 年度 206,608 名となった。開園 10 周年と来園者数 200 万人達成のタイミングが重なり、セレモニーを 12 月 25 日に開催した。

相談は 452 件で令和 5 年度より 50 件減少し、内容は生活習慣や発達の心配等と傾向は変わらなかった。地域や関係機関との連携が進み、団体や継続的な個人ボランティア、夏休みの高校生ボランティアなど、多くの人がべにっこひろばに関わってくれた。自主事業「べにスポ」はキッズコース、ジュニアコースの合計でのべ 1,070 名が参加した。音楽遊び「ぼろろん」はベビーコース、ステップコースの合計でのべ 399 名が参加した。施設や設備、備品の経年劣化のため修繕や買い替えが課題となり、特に山形市が行うべき修繕については市への働きかけを強め、指定管理者が行う修繕についても優先順位を意識して取り組んでいく必要がある(べにっこひろば)。

長井市の地域子育て支援センターとして 6 年目の「子育てでつながる家いろは」は、185 日開

館し利用者数は1,505名となり令和5年度より減少したものの、大規模施設には望めない支援を模索し、利用実人数では145名と増加し成果がみられた。長井市の出生数は令和2年161人だったが、令和6年は100人を下回りますます減少が続いており、乳幼児親子の孤立傾向をどのように防いでいくか課題である。「助産師さんの日」と「赤ちゃんの日」を「発達発育相談の日」に統一し、12回開催、親子34組80名が参加した。イベントは12回135名、「お食い初めフォト」「マンスリーフォト」「季節のフォト」などで利用促進や周知をはかった。不定期イベントは8回61名が参加、食育などいろはの特長を生かしたイベントの可能性を探った。

親子ふれあい遊びの「ドレミくらす」は15回118名が参加した。「赤ちゃんと一緒～ベビープログラム～」から独自プログラムを企画開発した「赤ちゃんくらす」は8回開催、のべ45名が参加した。年度末には親子参加型のお楽しみ会を開催し、にぎやかで楽しい時間を過ごすことができた（いろは）。

#### (8) 子育てに関するイベント事業(定款第5条(8))

令和6年度の山形県男女共同参画センターチェリアの「チェリアフェスティバル」は、全国女性会館協議会第68回全国大会をかねて開催された。活動内容のパネル展示や広報チラシを配置し、全国からの参加者に情報提供することができた。

「べにっこひろば」では、地域支援に関する業務として様々な団体と連携した恒例のイベントを開催し好評だった。

「子育てランドあ～べ」では、七日町のイベント時に開催した夏まつりに128名、秋まつりに71名の参加者があった。

#### (9) その他会の目的達成に必要な事業(定款第5条(9))

未就学児のいる子育て家庭への訪問支援「ホームスタート」は山形では自主事業、置賜では地域子育て支援拠点事業の加算事業として長井市委託事業の中で実施した。ホームスタートやまがたは、新たにオーガナイザー2名を増員し訪問家庭数は25件となった。ホームスタートおきたまは0件であった。ホームスタートジャパンの研修会などにオンラインで参加する他、南相馬で開催された東北・北海道エリア協議会に現地で参加し、研修とともにエリアの課題共有や交流ができた。ホームスタートジャパンの推進委員を継続し、スキーム立ち上げ、スキームサポートに関して活動した。

産前産後の支援は、令和5年度に続いて自主事業の産前産後サポート活動は利用がなく、山形市の委託事業の産後ケア事業のみであった。山形市産後ケア事業業務(ママサポーター)はのべ130回の活動となり前年度を大きく上回った(自主事業妊産婦等の産前産後サポート支援、山形市産後ケア事業業務)。

東日本大震災後約14年が経過し、支援の終結をテーマにした研修を行い、避難家庭支援の活動のまとめとした。山形・福島・新潟・宮城各県の支援者がともに交流研修する事業は平成25年より継続実施し12年目で、山形市にて長年にわたり指導していただいた杉山恵理子先生を招き、これまでの参加者にも呼び掛け39名が参加した。支援者が震災と向き合い、互いの気持ちを共有し、支援を継続していく上で重要な場となり、多くの人に惜しまれながら無事閉会することができた。これまで積み重ねてきた避難者支援の経験やネットワークは、日常の子育て支援に引継ぎ生かしていく(やまがたふくしま子育て支援交流事業)。

「子ども食堂」の活動では、Pont tree caféでシンシンの会の開催に合わせ、ひとり親家庭の食事支援として1食100円のテイクアウトを継続して実施した。令和5年8月より継続の「まちなか保健室」には、医療専門家による講話や相談の場として活用してもらい、様々な年代の人や

医療福祉関係者が足を運んでおり、コミュニティカフェとしての役割を果たすことができた(自主事業)。

## 2 事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の 金額 (単位:千円)
<b>(1) 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業</b>				
育児サークル支援	・相談及び遊具貸し出し ・交流会、研修会の開催 ・活動場所や情報の提供	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) べにっこひろばほか (C) 5人	(D) 一般市民 (E) 交流研修会 119人 活動場所支援 150人	
<b>(2) 保育事業</b>				
保育事業	・臨時託児室の設置による一時保育	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランドほか (C) 1人	(D) 一般市民 (E) 29件、託児数97人	
山形大学小白川キャンパス保育所運営業務	・山形大学の教職員や在籍学生、山形銀行職員及び地域家庭の子どもの保育 1歳児まで＝「つぼみ」 就学前まで＝「のびのび」	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) 山形大学小白川キャンパス (C) 21人	(D) 関係者及び一般市民 (E) 保育 29人、一時預かり 18人	
<b>(3) 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業</b>				
<b>(4) 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業</b>				
マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務	女性の就労支援相談業務、利用者を対象とした就職促進等のための企画の実施、託児業務など	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) ハローワークプラザやまがたほか (C) 6人	(D) 一般市民 (E) 相談 1,061人 企画参加者 204人 託児 154人	
マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務	女性の就業のワンストップ窓口を開設し、仕事と家庭の両立に関する相談や保育情報の提供、各種セミナーの開催、無料託児サービスの提供。	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) 酒田市役所ほか (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 相談 818人 企画参加者 124人 託児 87人	
<b>(5) 調査・提言事業</b>				
<b>(6) 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業</b>				
山形ファミリーサポートセンター運営業務	・事業の周知と啓発 ・会員の募集と登録 ・会員の統括及び相互援助の調整 ・会員に対する講習会及び会員の交流会の実施	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランド (C) 3人	(D) 山形市民 (E) 登録会員 565人 会員活動 3,199件	
子育てサポート応援団	・育児の援助を受けたいものと研修を受けた育児援助者の組織化 ・研修及び相互援助活動支援	(A) R6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランド (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 登録会員 143人 会員活動 0件	
山辺町・中山町ファミリーサポートセンター運営業務	・事業の周知と啓発 ・会員の募集と登録 ・会員の統括及び相互援助の調整 ・会員に対する講習会及び会員の交流会の実施	(A) 6. 4. 1～R7. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランドほか (C) 2人	(D) 当該町民 (E) 登録会員 161人 会員活動 13件	

山形県子育て支援員研修事業	・保育や子育て支援に従事・希望する者の必要となる知識や技能を習得するための研修会開催	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)協同の杜ほか (C)2人	(D)一般市民 (E)講座2クルー参加者174人	
やまがた他孫(たまご)育て支援事業	活力・意欲あるシニア層の子育て支援活動への参画を促す取り組みを行い、地域の子育て支援活動とシニア層を結びつけることで、子育て支援の裾野を広げ、地域全体で子育てを支える環境づくりを行う。	(A) R6. 8. 8~R7. 3. 31 (B)べにっこひろば (C)2人	(D)一般市民 (E)33人	
家庭的保育事業現認研修業務	・家庭的保育者の資質向上のため必要な知識や技術の習得のための研修会開催	(A) R6. 9. 1~R7. 2. 28 (B)山形市総合福祉センターほか (C)3人	(D)子育て支援分野に従事する者 (E)延べ110人	
「村山地域みんなで子育て応援団」育休復帰応援講座実施業務	・育休復帰後の仕事と家庭の両立などを考える機会の提供、同じ境遇の母親のつながりによる不安払拭と意欲の醸成のためのセミナー開催	(A) R7. 2. 4~R7. 3. 28 (B)子育てランドあ〜べほか (C)2人	(D)一般市民 (E)講座2回参加者延べ15人	
(7) 子育て支援施設の運営事業				
子育て支援施設子育てランド運営業務	・親子交流事業 ・一時預かり ・人材育成、相談事業ほか	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)子育てランドあ〜べ (C)21人	(D)一般市民 (E)25,984人	
山形市児童遊戯施設「べにっこひろば」等指定管理業務	・遊びの場やあそびの提供 ・子育て支援 ・相談対応ほか	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)べにっこひろば (C)37人	(D)一般市民 (E)206,608人	
子育てでつながる家いろは(長井市子育て支援センター)運営業務	・親子が交流できる場の提供 ・相談事業 ・家庭訪問相談事業ほか	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)子育てでつながる家いろは (C)3人	(D)一般市民 (E)1,505人	
蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務	・講座イベント開催 ・育児サークル活動支援 ・交流の場の提供 ・情報提供ほか	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)蔵王みはらしの丘ミュージアムパーク (C)1人	(D)一般市民 (E)292人	
(8) 子育てに関するイベント事業				
(9) その他会の目的達成に必要な事業				
山形市産後ケア事業業務(ママサポーター)	妊婦または産後1年未満の心身不調により養育に支障がある方の自宅にママサポーターが訪問し、家事や育児の援助をして負担軽減を図る。	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)各家庭ほか (C)3人	(D)一般市民 (E)130回	
妊産婦等の産前産後サポート支援	妊娠期・出産期を含めて母親を対象に産前産後サポートを行う。	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)各家庭ほか (C)2人	(D)一般市民 (E)0回	
ホームスタート(先輩ママの家庭訪問支援事業)	身近に支援者がいない家庭、外出が難しい家庭や育児不安を抱える家庭に対して、孤立防止や負担軽減を図るために傾聴、協働を行う。	(A) R6. 4. 1~R7. 3. 31 (B)各家庭ほか (C)2人	(D)一般市民 (E)訪問回数54回	

やまがた・ふくしま子育て支援交流事業	避難者支援に関わる支援者 団体対象 ・情報交換と研修会や交流会の開催	(A) R5. 4. 1~R6. 3. 31 (B) 産業創造支援 センター (C) 2人	(D) 関係者 (E) 39人	
--------------------	--	--	--------------------	--